

やさしい昆虫講座 44

「何処で冬を越そうか？-2」

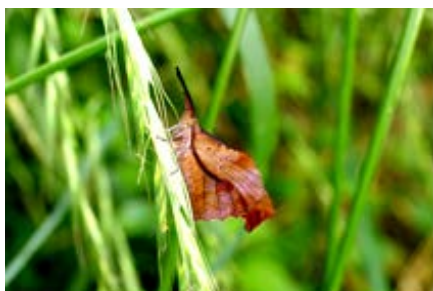
木村 裕

「新年明けましておめでとうございます。待ちに待った暖かい春が目前ですよ。目を覚まして出動準備をしてください」 ならやま地区チョウ・ガ連盟会長の新年のお言葉でした。

チョウチョウやガさんの冬越しはどうなっているのでしょうか？ 幼虫で越すもの、成虫で越すもの、蛹や卵で越すものなどいろいろなタイプがあります。

ならやまに住み着いているジャコウアゲハさん、ミカンの葉を食べるナミアゲハさん、ダイコンの葉っぱを失敬するモンシロチョウさんなどは、気温が下がると餌場を離れて、近くの住宅の壁や軒下、柱、石垣、樹木の幹などの上で蛹の状態を冬を越します。寒風吹きさらしの餌場の葉上では寒さもさることながら吹き飛ばされる危険もあって安全地帯へ移動します。備えあれば憂いなし、よく考えてますね！

テングチョウなどタテハチョウさんの仲間は、成虫のチョウの状態を北風の吹きつけない建物の陰や樹の隙間などの安全地帯で居眠りした状態で冬を越します。それゆえ3月になって暖かくなれば早々にひらひらと飛び出します。



近年増えているスマレを餌とするツマグロヒョウモンさんは、冬でも餌が潤沢にあることもあり幼虫の状態を冬を越します。寒い時期はじっとしていますが、暖かい日には軽く運動をして葉っぱも齧ります。春先にひらひら飛びまわっている小さな赤っぽいベニシジミさんも餌場のギシギシのところで幼虫で冬を越します。

小さなミドリシジミの仲間は、寒さに弱いため

木の芽の周りに産みつけられた卵の状態を冬を越します。

地球温暖化はチョウチョウの世界にも影響ができています。私の子供の頃には南九州しか住んでいなかったナガサキアゲハ、モンキアゲハ、イシガキチョウなどの南方系のチョウチョウさんが、奈良県でも普通に見られるようになりました。冬越しができるようになったのですね。



春にウバメガシの垣根やツツジに発生する黒っぽい毛虫、マイマイガさんは夏過ぎに木の枝に数百個の卵を産みつけますが、超肥満体のお母さんは動き回るのが億劫か手近の住宅の壁や柱などにも産みつけます。卵塊はその表面をお母さんの体毛で覆い隠されるので灰色の塊にしかみえませんが、純毛の寝袋と厚い殻に守られた卵は厳しい寒さでもびくともしません。



マイマイガの親戚のマツカレハはマツにつく灰色のケムシで、幼虫のケムシの状態を冬を越します。冬でも葉や枝の上に寝転んでおり、寒い日はじっと寒さに耐えています。少し暖かいと起きだして葉をボリボリ齧ります。

ミノムシさんは暖かい純毛？の寝袋にくるまっていますが、冷たい北風はこたえるようで入り口をしっかりと閉じて隙間風の入らないようにして幼虫のまま冬を越します。

チョウ・ガの皆さん、冬越しにはあの手この手とそれぞれに知恵を絞っているようです。